

分科会 21

LGBT への理解と支え合い

- コーディネーター：四方田清（日本精神保健福祉士協会）
松田裕児（暮らしサポート成田）
中西唯公（順天堂大学）
三木良子（帝京平成科学大学）
- シンポジスト：鈴木麻斗（NPO 法人 Medical G Link）
長野香（NPO 法人 SHIP）
石川真紀（千葉県精神保健福祉センター）
石田恵美（千葉県精神保健福祉センター）

1. 分科会の開催趣旨

近年の社会において、LGBT（セクシャルマイノリティ）に対する社会的な課題として、社会的な価値と性の多様性の論議が始まっている。教育の現場における児童生徒への対応、家庭での子育て支援に関する課題、中高生や大学における性とその人の持つ価値（職業選択も含む）の在り方等々で、徐々に社会における多様性として理解が進んできたといえる。

この分科会では、「LGBT への理解と支え合い」をテーマとして、当事者の方や支援者が一堂に会し、日頃感じている様々な課題やその対応、率直な意見交換と情報交換することを目的に開催し、日頃の思いを語り合える機会と場を作ることを目的とした。

2. 分科会の概要

分科会は第 1 部をミニシンポジウムとして、4 人のシンポジウムの方々からそれぞれの日々の活動や LGBT 支援への考えや意見を話題提供し、第 2 部として、5 グループに分かれて、シンポジストがそれぞれのグループに入り、参加された方々とのディスカッションを行った。さらに終わりに各グループから話し合われて事柄を発表して、全体でその内容を共有した。

〔シンポジストの話題提供〕

① 鈴木麻斗氏

ご自身が幼少期から感じていた性別の違和感と生活していくときの価値観の変容、現在の仕事（相談支援や講演会活動等）と今後の生き方についての報告。

② 長野 香氏

相談支援者という立場から、現在行っているセクシャルマイノリティへの相談支援としての活動と日頃感じている支援の重要性について報告した。

③ 石川真紀氏

精神科医として、生理学的な統計データを元に、セクシャルマイノリティの報告、LGBT 支援の必要性を報告した。

④ 石田恵美氏

精神保健福祉士として、行政の担う役割と LGBT の権利が当たり前認められる社会の実現についての報告があった。